

『つながりの森』ワークショップ

みんなで考える「つながりの森」

～横浜の自然を、次代につないでいくために、私たちにできること～



市民の手で、「つながりの森」を守り、楽しむために何ができるか、をテーマにワークショップを開催しました。長年環境活動に携わっている方から、これから何かやってみたいという方まで幅広い方にご参加いただき、「つながりの森」の将来像と市民の手でできることについて、活発な議論が行われました。

第1回 【日時】平成24年3月14日(水) 14:00～16:30 【場所】 横浜市栄区役所 新館 1F 機能訓練室 【参加者】 22名	第2回 【日時】平成24年3月20日(火・祝日) 14:00～16:30 【場所】 ののほな館 2Fレクチャールーム 【参加者】 9名
--	---

☆当日の流れ☆

オリエンテーリング(本日の趣旨説明・自己紹介)～グループワーク(キーワード「自然を楽しむ」、「生物の多様性を大切にする」)～まとめ

☆参加者の主な意見☆

- ・生き物の生息・生育空間として、「つながりの森」は重要だと思う。まずは、皆さんに知ってもらいたい。
- ・生き物の生息・生育地である場を守ること、これ以上減らさないことが基本としてあるべき。
- ・保全活動を今後も行っていくためにも、担い手の育成が必要になる。
- ・「つながりの森」は、世界中からエコツアーにくるほどのポテンシャルがある。そのためにも、しっかりと大人が「つながりの森」に対する将来イメージを共有する必要がある。
- ・つながりをもつためにも、様々な団体が「つながりの森」における将来像や目標を共有することが必要ではないか。
- ・子どもの頃の、原体験は身近な場所で体験することが重要だと思う。「つながりの森」がそういう場になってほしい。また、子どもたちが学べる環境を守っていくことが一番大事。
- ・“木を切ってはいけない”という誤った知識を小学生の時に習った。正しい知識を持つことが、生き物の保全に繋がると思う。
- ・団体同士の将来像の共有は、相手の団体が何をを行っているのかというのを、現場で見ることによっておのずとわかってくるもの。現場で一緒に活動していくことによって、共有できる部分に気づく、それが市民活動だと思う。

☆当日の様子☆

